

公共施設の改築や再整備に併せた 社会基盤の質的充実



道路研究部 緑化生態研究室 (研究官 (博士(工学))) 木村 優介 室長 栗原 正夫

(キーワード) 道路空間の再整備、景観形成、空間計画、市街地と郊外、連携

1. はじめに

老朽化する公共施設の増大に伴い、社会基盤の戦略的維持管理とともに、その質的充実が求められている。すなわち、公共施設を更新・再整備する過程で、良好な景観や生活環境の形成を目指し、質の高い空間を創出する必要性が高まってきた。

特に道路空間の再整備にあたっては、一体的な景観形成や観光振興等の観点から、沿道の施設と連携した公共空間の創出が求められている。また利用の観点からも、日本風景街道等に見られるように、道路を核とした多様な地域活動が全国で進められている。しかし、道路と他の施設、市街地と郊外等の所管を横断する複数事業の連携や、地域活動を景観形成へと効果的に結びつける道路事業の枠組みについては十分に検証されており、景観法の運用方法等、良好な空間形成を展開させる方策が明確ではない。

そこで本研究では、道路空間の再整備を実現した事例を対象に、道路事業と関連事業、及び市街地と郊外の地域関係者の活動を連携させる計画手法を検証するため、事業の組織体制やデザイン上の工夫、再整備後の維持管理・利用方法等を踏まえて、事業及び制度の運用方法と効果を明らかにする。

2. 道路再整備事例の分析と関連制度運用の整理

調査にあたっては、まず道路空間の再整備に関する情報整理と実態把握のため、全国の道路・街路の再整備事例を100箇所程度収集する。ここでは、近年の再整備の傾向、改善点等の明確化を重視するため、スケール・景観形成の程度等に関して幅広く取り上げる(表、写真)。これらの類型化と並行して、質の向上の程度を把握できる具体的な基準を検討する。

さらに、現行の地域活動に関連する制度を整理する。日本風景街道等の取り組みにおいて、伝統的建

造物群保存地区や土木遺産等の活用を進めているものに着目し、課題等を整理するとともに、広域の地域関係者が連携できる取り組み手法を検討する。

3. 今後の展開

以上の事例収集と類型化に基づく検討に引き続き、特定事例に関する詳細調査を踏まえて、道路事業と他事業の連携による事業化手法、及び都市的な波及効果の分析、景観法等の既存制度の運用による市街地と郊外の景観形成方策の検討を進める。また、海外諸都市の事例とも比較分析を行う予定である。最終的な成果として、各事例の特徴を一元的に把握できるデータベースや手引き等を整備し、道路を核とした地域づくりを支援していきたいと考えている。

表 道路・街路に関する再整備事例の類型案と事例

| | |
|--------------------|---------------|
| ① 観光地の顔となる歩行者中心道路 | 出雲大社前 神門通り |
| ② 都市の骨格となる駅前大通り | 姫路駅前 大手前通り |
| ③ 歩行者中心の商業地、商店街 | 丸亀町商店街 |
| ④ 広場の空間の創出 | 創生川公園(創生トンネル) |
| ⑤ 立体道路制度による利用の高度化 | 首都高速 大橋JCT |
| ⑥ 路線指定の見直しによる一体的整備 | 道後温泉本館周辺道路 |
| ⑦ 住宅地開発と連携した道路整備 | 震災復興における高台移転 |
| ⑧ 車線数変更等による断面構成の改変 | 自転車専用路・路上駐輪場 |



写真 歩道拡幅による緑陰空間の創出
(神戸・旧居留地、上表類型案③④⑧に該当)